

月刊 千葉動力車労働組合

国鉄千葉動力車労働組合

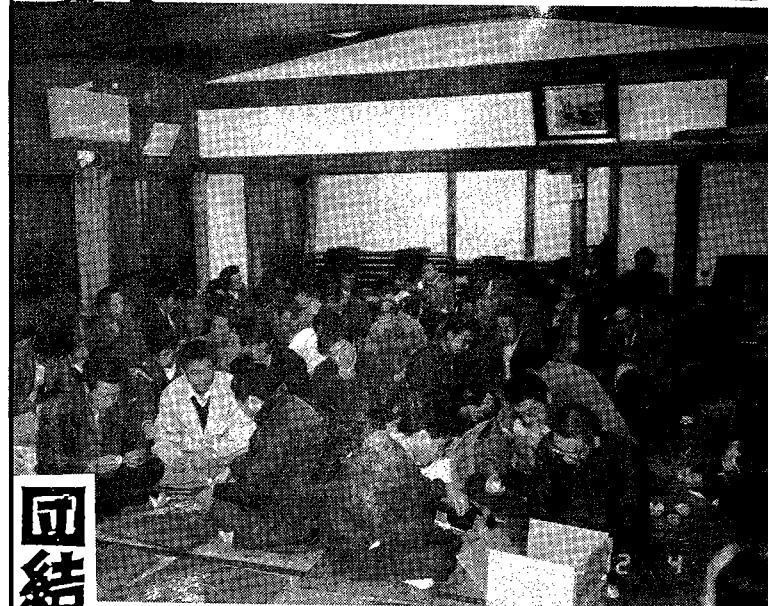
〒280 千葉市翠町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

89.12.20 No.3135

動労千葉結成10周年!

当局の手の内みたり!

標旗全員がスト決起



団結固め二三月へ

「分割・民営化」から三年目、遂に列車を停める偉大なストが勝ちとられた。千葉運転区支部では、事務を除く全員が敢然とストに起った。
一二月四日、ストの爆発に恐れるJR東日本は、早くも鉄柵で運転区を封鎖し、近づく者一人一人をチェックする。何と弁当屋さえも入れず追い返されてしまった。
まさしく公安警察さながらだ。同時に運転区では、組合員を一人残らず排除せんとT助役らが騒ぎ立てるが、「俺たちの職場だ。本社の課員こそ何しに来た。」と断固抗議をする。一七時すぎ幕張、総武支部の仲間がかけつけ門前で総決起集会

が開催され、運転区内外で怒りの闘いが買かれたのである。
五日未明いよいよスト突入だ。スト破り要員が四方を課員にガードされ首をうなだれて出てくる。我々はスト破りを絶対に許さない。運転区前で、千葉駅で、当局・警察機動隊の排除攻撃をはねのけ抗議行動を貫徹した。
またストライキは国労の仲間達をゆり動かし、スト破り業務命令に弾劾の嵐が巻き起こり、「俺はスト破りは出来ない。」と国労と鉄産労から二名の仲間が動労千葉に加入共に闘った。
千葉運転区支部は、二名の勇気と決意を受けとめ、我々の仲間として全力で守り抜く。
一・二・五ストは俺たちの勝利だ。来春「九〇・三ダイ改」・事業団闘争に全力で決起しよう。

反合・運転保安確立!
「90・3ダイ改」阻止
清算事業団決戦勝利!

動労千葉京葉支部第二回定期大会は、一二月一日反合・運転保安確立―土職の差別登用反対、不当処分粉砕を掲げ闘い抜いた、一波―三波ストの貫徹と確信を引き継ぎ、力強く開催された。
議長に高田代議員を選出し、冒頭あいさつに起った深見支部長は、「JR当局・JR総連一体となった攻撃に対し、動労千葉はJR体制後初の運転ストライキをも勝ちとり、敵の攻撃を粉砕した。支部としては、スト権のある労働組合として、当然の権利であるストライキをいつでも行使できる体制を確立したい。
来春の京葉線全線開業へ向けて、自らの力をたくわえ一致団結して力強く進んでいきたい」と訴えた。続いてあいさつに起った本部・田中書記長は、「今回の運転二四時間ストを頂点とする、反合・運転保安をめぐる闘いは、大変大きな勝利を獲得してきた。JR体制後動労千葉の手によって初めて列車が止まった。現下の運転保安の危機を、事故の本質を、徹底的に指摘し解明したがゆえに、社会全体的にこのストがうけとめられてきている。
動労千葉は、国鉄労働運動を引っ張っている機関車なのだ。
今回運転ストが成功したのは、一つには営業・検修と積み上げた力が背景にあったと言える。

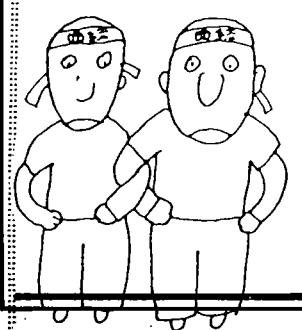
JR当局はこのストに對し何をやったのか! スト破りのために、一時的に東京電車区の仕事を田町電車区に業務移管し、公休にまで業務命令を乱発したではないか! これだけの体制をしきながら、三五〇本の列車を運休に追込んだストライキの威力を確認しよう。今回の教訓と勝利を我

90年春季闘争勝利にむけて 京葉支部は進撃する 第2回定期大会で闘争方針確立

がものとし、来年二―三月の清算事業団決戦と九〇・三ダイ改阻止闘争へと昇りつめよう、この二月の闘いをもってして息を抜くことのできない決戦期にはいったと言えらる」と発言を行った。
続いて白熱した質疑に入り―①調査活動を強化する必要がある。②ポーナスカットに対し、組織としてどう取り組んでいく

か! ③JR総連の役員であるというだけで、優遇措置は許せない。④現場判断でストに突入できる体制はできないのか! ⑤来春の「ダイ改」で京葉線の運転時分はどうなるのか。⑥JR当局のモデル線区―京葉線に於ける支部の存在が今日問われている。⑦支部ニュースを定期的に発行する体制を構築する。
等時間のつぎることのない討論の中から、今次ストライキで培った力量を全体のものとしたのである。いざ決戦の場へ! 京葉支部は進撃する。

役職	氏名
支部長	深見 四郎
副支部長	伊藤 詔一
書記長	山田 謙
執行委員	中村 康幸 鈴木 雅樹 吉野 道夫
会計監査員	野村 康哉 関 寿



全組合員が血を流し、涙を流し、そして勝利した10年!